

リスニング宿題教材として、教師自作YouTube動画の効果・課題・今後の展望

～小学校1年生～2年生の事例からの考察～

第14回

(2021年2月21日)

関西多読指導者

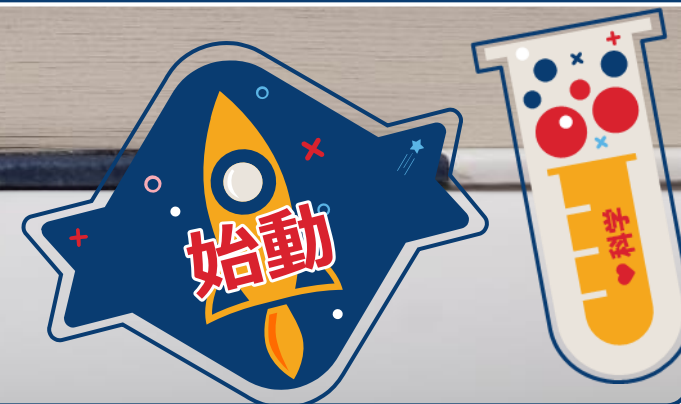
Online セミナー

主催：日本多読学会

サム マーチー

尚絅学院大学（宮城県名取市）

上杉英会話教室（宮城県仙台市）

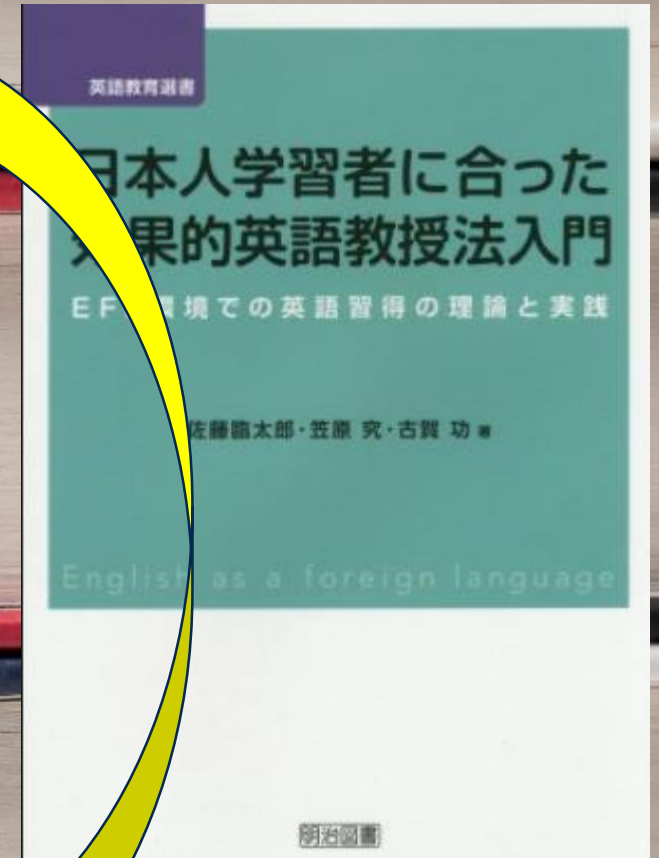


子どもの言語習得過程の特徴

①インプットからスタート

「十分なインプットがなければ、英語習得はまず無理であるということは間違いないでしょう。しっかりと生徒を英語に触れさせること【と】、教師が質の高いインプットを潤沢に生徒に与え続けることが重要なのは自明である。」（佐藤、笠原、古賀 2015）

→インプットの根拠について保護者に説明するときには有力な文言



インプットでは読者と聞き手と「脳内世界」が変わる。

アウトプットだけが「現実世界」を変える。

「つまり、自分の周りを変えたい、何かに貢献したい、世界を変えるのは、アウトプットする人であり、インプットのみしている人ではない。でも、だからと言って、直ぐにアウトプットに焦点を充ててもダメ。

（例：スポーツと準備運動、あり合わせ材料の料理 vs. 事前に必要な器具・材料の入手）」

「S.Learningなどの流行りの本に左右されず、研究データに基づいて、長期的な成長のための土台を作り方を分かりやすく説明し、一緒に実行していくのが、教師の大きな責任と役割

（専門的知見を活かして、市場に溢れる教材の選別責任）

良質なアウトプットは大量なインプットの上に成り立っていることを覚えて子ども達の授業を組み立てることが大事

アウトプットの必要性を否定→X

インプットの重要度を上げる→O

(多読こそがアウトプットを長期的な視点で真剣に捉えている英語学習法である(「ことが分かった。」)



②教材は子供「反応を見てその難易度を調整」(黒川 2020)

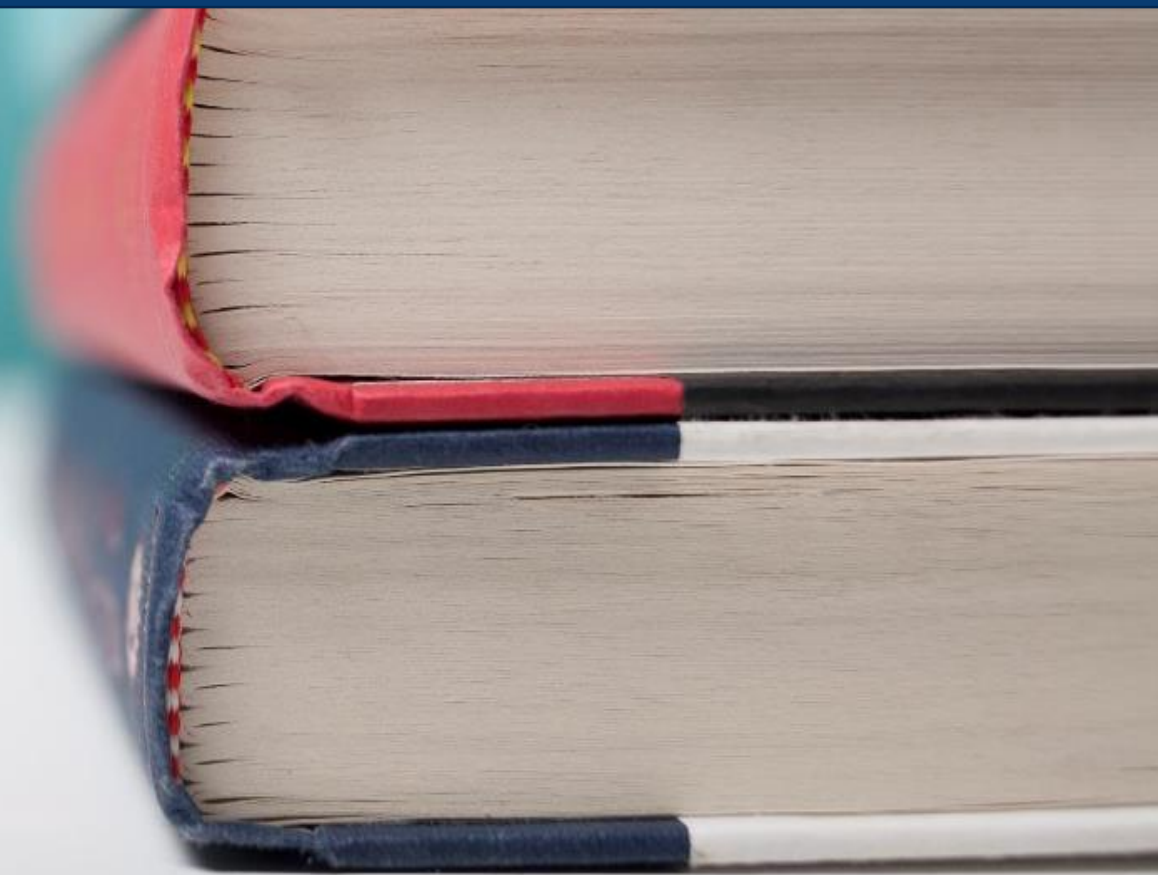


③ 「良質のインプットをできるだけ多く」
(バトラー 2015)

→つまり、ライティング・スピーキングを後からと考えるのは悪くない。

『小学生のうちに、多読させる ことの利点について』

小学校低学年では、
「多聴」を「プレ多読」
と捉える。



「...多くの質問の内容は、もはや多読の
効果に対する質問というより、実践の部
分で、どうすれば成功できるのかという質
問に移行してきている。効果については
証拠を提示する必要がなくなってきたほ
どに多読に対する意識が変わってき
た。」

(『多読を成功させる条件』、紅子 Mason,
2012)

プレ多読活動

多読活動

ポスト多読活動

- ・本の選択指示
- ・声掛け
- ・アイスブレイク
- ・今日のハイライト
- ・音読前のQ&A
- ・多聴(聞き読みを含む)
- ・環境整備

- ・音読
- ・黙読
- ・聞き読み
- ・読み聞かせ
- ・読者観察
- ・声掛け
- ・レベル変更の助言、

- ・感想／メモ
- ・アンケート
- ・口頭面接
- ・理解度テスト
- ・効果実感用のフィードバック
- ・多読法の根拠の再説明、等
- ・累計読了語数の確認

今日：多聴の質・量の充実度を高めるために何が出来るか？

場内戦略 × 場外戦略 = 結果

レッスン

自宅学習

$100 \times 0 = 0$

生徒が良質な英語を潤沢に インプットする**仕組み化**が重要

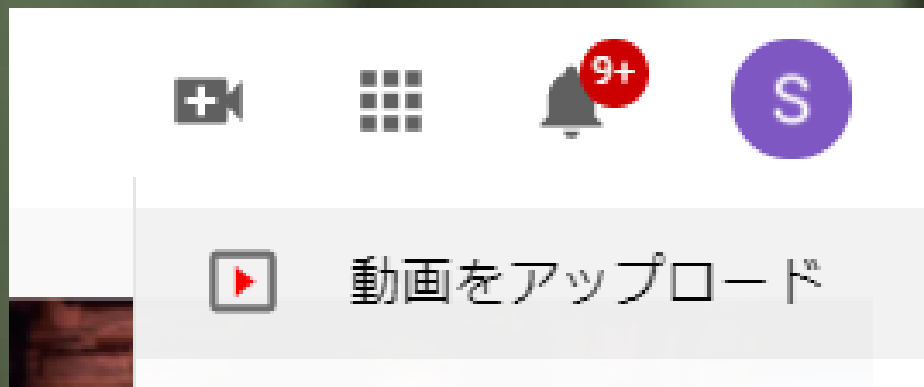
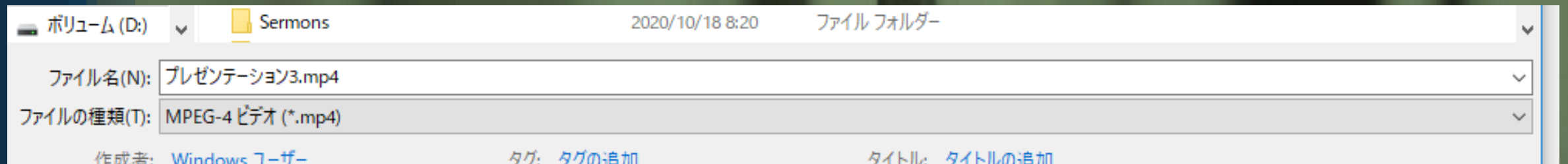
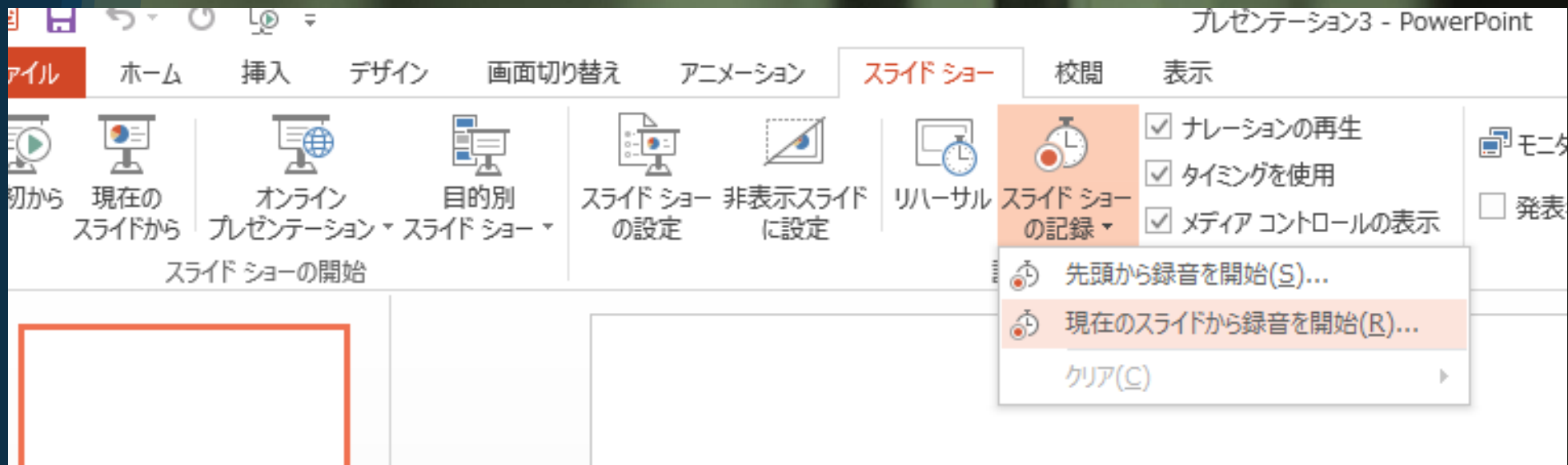
- リスニング（音声）重視
- 難易度が調整可
- 作成・配信バリアが低い
- アクセスバリアが低い



この4つの要素が必要

①～④の条件を満たす教材は： 教師自作のYoutube動画

- ①リスニング（音声）重視
- ②教材の難易度が調整可
- ③作成・配信バリアが低い
- ④アクセスバリアが低い（気軽に取り組める）





February 20th, 2021 2/21/2021



X → **No, it isn't.**

O → **Yes, it is.**



Sunday
Monday
Tuesday
Wednesday
Thursday
Friday
Saturday



Review 3

1 Read and say:



2 Match the letters:



Phonics Kids

3 Circle the little letters.





対象・期間

**対象：私塾の小学生クラス6人（1年生5人、
2年生1人）**

週1回レッスン

レッスン開始時

受講者6人中5人が英語学習未経験者

期間：2020年8月～2021年2月

効果①

①レッスン内のテスト無しでも、宿題音声内で反復率の高い語彙・文字・表現が定着した。

(e.g. How many~?

Sunday, Monday

“Please take out your phonics book.”

“Questions # ~ ~”

効果②

毎週のレッスンの進捗状況に合わせた教材をその都度作りやすい。(教師のエンパワーメント)

→内容に流動性がある。「生きた教材」

課題 # 1

① 視覚刺激の不足感

→ 作成技術の向上が必要

※ 他者とコラボする

(多読教育者同士の連携強化の必要性)

課題 # 2

- ① 話者の顔の表情が見えない
(子どもは話者の口の動き、頬の筋肉
の変化を見て話し方を学ぶ。)
話者の顔出すのはどうか？

課題 # 3

閲覧履歴のデータの不確実性

→ 自己報告 vs. データのギャップ

課題 # 4

語数のトラッキングは非現実的

(進捗をその都度、数値化できる「多読」とは違う。現在は「リスニング時間」のみを数値化できる。)

今後の展望

① 教師自身のIT活用術向上

(対面でも“Delivery”の常時向上意識は大事。)

②他者とコラボ

→弱点の補い⊕

→配信ペースが乱れやすい⊖

③市販教材を参考にしながら、自分のコンテンツを作成する。

耳リスニング力を上げるためには、教師自作のYoutube動画は有用である。

- ・どれほど有用？**
- ・市販教材との比較について**
- ・動画の種類毎の効果検証、等**

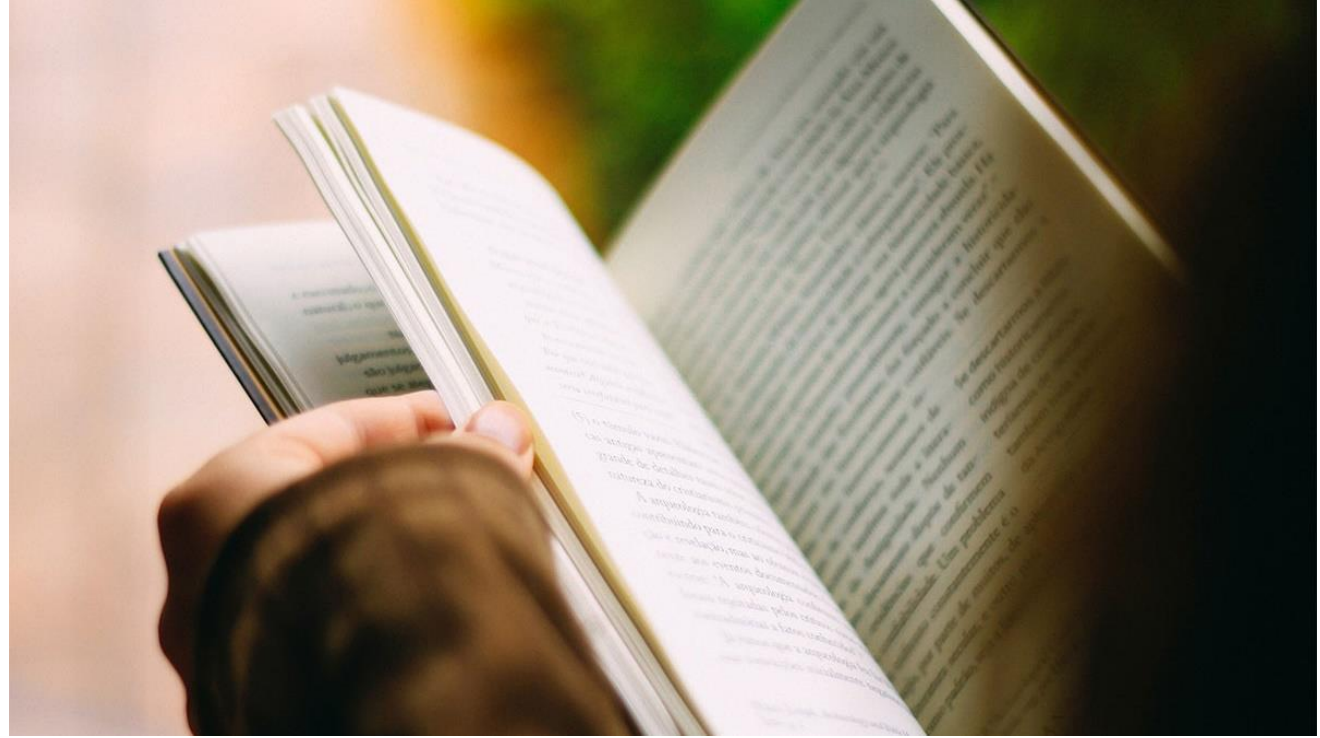
→課題は沢山

耳からの情報収集が得意な時期は限られている。

「リスニング力」の重要性が強調される
今、外国語のリスニング能力を科学的な視点から取り上げる重要性は一段と高くなっている。

**Thank you for
your time and
attention.**

サム マーチー



尚絅学院大学 (www.shokei.ac.jp)
上杉英会話教室 (www.sendai-kes.jp)